

市議団ニュース

NO. 1790
16.03.20
日本共産党根室市議団
宝林町4-203
電話23-6023
FAX24-1684

一人ぐらし高齢者世帯等へのきめ細やかな支援策を

神中心志議員が一般質問

3月定例会月議会において、9日(水)の代表質問(共産党・鈴木一彦議員)に続いて行われた10日(木)の一般質問の一番手で神中心志議員が登壇しました。神議員は、昨今急激に伸展、「超高齢化社会」現象にある根室市での一人ぐらし高齢者世帯や後期高齢者世帯が日常生活をする上での様々な困難さや生活課題がかかえていることについて、人口減少対策としても、市行政としての細やかな支援策の必要性があると質問しました。

急激に増加する高齢者世帯

神議員は、まず最初に高齢者世帯数がここ十年余の間にどの様に推移してきたのか、質問しました。

市長は、「高齢者世帯調査」で把握した数値を次の様に示しました。高齢者(65歳以上)世帯では、平成12年度は、717世帯、平成17年度908世帯、平成27年度では、1447世帯とこの10年間で539世帯と59%も増加していると答弁しました。また、75歳以上の後期高齢者医療加入者は、平成20年度で、3498人、平成27年度では、4237人と

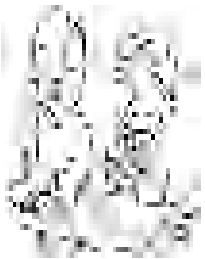
7年間で739人と21%も増加しているとし、今後の後期高齢者の推移では、高齢者保健福祉計画の推計値で5年後の平成32年度で、4426人、10年後には、4745人となっており、一人ぐらし高齢者世帯は、今後増加すると答弁しました。

一人ぐらし高齢者世帯がかかえる生活課題は？

神議員は、高齢者世帯が急激に増加している中で、一人ぐらし高齢者世帯等がかかえている生活上での困難さや多くの課題が増加してい

ると考えるが、市としてどのように捉えているのかと、市長の見解を求めました。

市長は、こうした世帯の生活課題は、「地域包括ケアシステム構築」に向けた調査で、買い物付き添い、ゴミ出し、電球の取り換え、家具の移動、日常の話し相手といった要望があり、きめ細やかな支援への対応が必要である。」と答えました。



現在の支援策とそれから外れる支援策への対応はどうするのか？

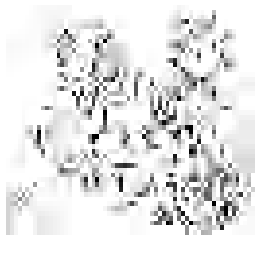
さらに、神議員は一人ぐらし高齢者世帯等への現在の介護事業での支援策とその制度から外れる支援策をどうするのかを質問しました。

市長は、現在見守り・安否確認として、「緊急通報システム」や乳酸菌飲料(ヤクルト)宅配による声かけ、認知症の方への見守り等を実施している。さらには、新聞店、生協等と協定をし、見守りネットワークで高齢者の孤立防止を行っている」と答えました。また、生活支援としての家事援助、配食サービス、除雪サービスを行っているとし、これらから外れる生活課題は「地域包括ケアシステム」を構築、29年度から始まる「地域総合事業」での「高齢者元気づくりに推進」の各種施策で取り組むとしました。

生活課題解決へ出来る方策から急いで実施を

神議員は、すでにこれま

の「福祉除雪」等では対応できなくなっている。新しい制度の検討や「地域包括ケアシステム」が構築されるまで待つという姿勢でなく、できることから始めること。



特にそのため「地域づくり」が求められる中で、何からやるのかを早くはつきりさせ、例えば「地域包括ケアシステム」をつくるて行く上で、大事な役割を果たす人材「生活支援コーディネーター」等を配置し「ケアシステムづくり」「地域づくり」を進めることがまず必要であるとし、市長の考え方を質問しました。

市長は、直接生活支援コーディネーターの配置には触れませんでした。が、「地域住民のボランティア活動、コミュニティ活動」の活性化など地域社会全体で支え合う環境づくりを進め、解決しなければならぬと答えました。

地域包括ケア計画」にある住み慣れた地域で自分らしく生きることを目的とする「システムの構築」が必要と答弁し、「住民アンケート」「事業所アンケート」の結果をもとに「地域ケア会議」でシステムづくりに必要な人材を含めた「資源の洗い出し作業」を進めていると答弁しました。

低所得者層への対応も十分に検討を

神議員は、いわゆる今までの介護事業から国は次々とサービスを外へ外へと押し出しており、そこから外れたサービス等には、個人負担がともなうことも十分予想されるので、年金の低い低所得者階層の皆さんへ配慮した支援策も欠かせないと指摘しました。

また、国の介護事業サービスから外れるものや新しい制度をつくる中での事業を推進するには、予算編成にも工夫が求められる、これまでの「各部所への枠配分方式」から柔軟に対応できる予算編成でなければ、こうした支援策を実現できないと追求しました。